

# H25年度 第1回物部川地域アクションプランフォローアップ会議の概要

日時：8月30日（金）14:00～16:30

場所：香美農林合同庁舎 1階大会議室

## 1 議事等

- (1) 産業振興計画関連 年間スケジュールについて
  - ・産業振興計画関連の年間スケジュールについて説明
  
- (2) 地域アクションプランについて
  - 1) 第2期物部川地域アクションプランの進捗状況等について
    - ・上半期の進捗状況等について説明
  - 2) 追加の案件について
    - ・「還元水を活用した野菜の生産体制の構築とブランド化」について説明
    - ・案について了承された
  
- (3) 産業成長戦略について
  - 1) 来年度以降の誘客戦略について説明
  - 2) 移住促進について説明
  
- (4) 産業振興センターの取組について
  - ・産業振興センターの取組について説明

## 2 意見交換

<産業振興計画関連 年間スケジュールについて>

- ・特になし

<地域アクションプランについて>

- ・AP NO.3「ニラの産地力強化」について。本年度は部会においても販売目標額29億円という中で取り組んできたが、販売単価の長期低迷等もあり、今のところ目標金額の5億円減くらいの動きになっている。ニラの主力産地でありながら今後大きな課題として、販売面の基礎となる単価の問題もあるが、やはり生産量をどのように維持していくのか。奨励品目でもあり、もう一度原点に立ち返り、栽培の作型も含めて安定した出荷量を確保できるように、栽培形態や経営状況を関係機関とともに確認し、検証していかなければならない。
  
- ・「あけぼの市」については、農業振興センターにお世話になりながら、現在建設が順調に進んでいる。今後、長岡地域の特産品を使ったスイーツ等の開発や研究を進めるようにしており、お構いなければ商工会からもアドバイスを頂きたいと思っている。
  
- ・今日の高知新聞に、高知県全体で園芸連の落ち込みが非常に厳しいということが出ていた。こうした中で、「還元水を活用した野菜の生産体制の構築とブランド化」に取り組むということだが、この展望について、詳しく説明をお願いしたい。  
→「還元水を活用した野菜の生産体制の構築とブランド化」については、現在事業主

体である株式会社南国スタイルが平成23年6月から実証試験を行っている。報告では、青ネギやハウレンソウといった葉物類では30%くらいの増収効果があり、主要な成分も増加しているとのことだった。それがどんな形で、どういうメカニズムで増えるのか、高知大学に研究と実証試験をお願いしている。通常であれば、試験結果が出てから産業振興計画に載せ、普及・販売していく形をとるが、実態として成果が表れており、試験段階から支援していくことが必要ではないかと考え、今回提案させて頂いた。収量の増加とブランド化により、農家所得が増えればと考えている。

- ・土佐打刃物の製造業の後継者育成について、先ほどの説明にもあったが、候補地も決まって、指導する方も非常に意欲的であったが、この春に突然お亡くなりになった。大変残念ではあるが、後継者育成は今後の鍛造界を考えた時に非常に重要なことであり、引き続きこのことをお願いしたい。
- ・AP NO. 11「生産から販売までのユズの総合的な産地強化対策」について。23日に本年度の部会総会があり、平成24年度の販売実績が4億7千万円であった。

物部を中心としたユズは青果出荷量日本一という評価を頂いている産地であるが、現在の状況は農家の高齢化と長年作ってきたユズの木が寿命にきていることもあり、産地を維持するために生産農家の後継者育成や、産地基盤をどのようにしていくかが課題になってきている。現在、生産者と関係機関が一緒になって課題に取り組むため、「ユズ産地構造改革計画」を進めているが、なかなか厳しい状況である。

→ユズについては、現在「ユズ産地構造改革計画」に取り組んでいるが、若い人が機械導入、共同作業、受委託、規模拡大に積極的に取り組むという新たな芽もその中には盛り込んでいてもらいたい。折角ここまで培ってきたユズの産地でもあり、それを持続的に発展させるような内容を検討しているので、関係機関にも繋いでいきたい。

→今年、香美市で知事の「対話と実行行脚」があり、その時にユズの若手の生産者と話ができたことを、知事も非常に喜んでいて、こんなに若い人がユズだけで食べていくという意欲を、非常に感じ取ることができたと言っていた。
- ・ニラを始めとしてネギや様々な作物に対して、県が特許を取っているパーシャルシール包装は、20年の特許期間があと少しになってきている。消費地から遠隔地である私達に対して、助け舟になっていた技術が武器ではなくなるということを心配している。何とかこれに替わる物、これ以上の物を県の知恵と努力で、私達のニラを始めとした農産物に対してバックアップをお願いしたい。

→それぞれお繋ぎし、対策も検討していくようになっていると思うので、また情報が入り次第お話ししたい。
- ・AP NO. 15「シイラ等の加工商材活用」について。これからは少し不漁の時期になるが、H25年度到達点の700万円はクリアできている。

→産業振興推進総合支援事業の補助金を入れて加工場を整備したが、一時漁獲が落ち込んでいた。今回だんだんと持ち直してきており、浜値も良くなってきている。何より漁業者の方の所得が上がるのが一番大事だと思っている。
- ・ユズ、ニラ、シイトウといった経営農家の減少が見られており、生産のための労働力

がとにかく足りないということであった。それと同時に、少子高齢化の中で、今後の農業就労者、専業農家をどう育成していくかという問題が目前に迫っている。農業を振興させていく上において、UターンやIターンの新規就農者について、今後どのような展望を持っているのか。

→産地の維持発展のための生産者確保の点については、JAグループの各生産部会で担い手調査をし、取りまとめも行っている。そうした中で、それぞれの生産部会の中で、新規就農者を受け入れる研修の体制作りや、新規就農者若しくは規模拡大する方の農地又はハウスの利用調整の取り組みを検討していくと聞いている。

現在、農業振興センターも市町村と一緒にあって、農地の利用集積や担い手確保に取り組む中で、制度を利用した人・農地プラン作成のお手伝いをさせてもらっている。その中で次の担い手になる方、農地又はハウスを集約する方の農地についても、地域の中で合意を得る取り組みも一緒に行っており、品目の選定、団地化、規模拡大、集約についても一定の方向性が出てくると思う。

研修の受け入れも、国・県の施策を活用し、指導農業士や研修受け入れ農家の選定について、それぞれの市町村で体制も充実させていく。

→新規就農者が一人前になるためのサポートというのは、国の制度もあり、できるだけ手厚くやっていこうと考えている。

農業だけではなく、第二期の産業振興計画の中で、今年から移住の取り組みも始めた。仕事、住まい、趣味といったいろいろな観点から、高知に関心のある方を呼び込めるような大きな取り組みもしており、そちらの施策も併せて進めて行きたいと考えている。

#### <産業成長戦略について>

・移住について。最近県から紹介していただいたのが雇用型の新規就農支援制度で、農の雇用というものがある。こういう話が今まで情報発信できていなかったと思う。

うちで受けられるのならやってみようかという声もある。農家も助かるし、後継者がいない人は自分がやってきたことを後に引き継ぐこともできる。移住促進のためにもなるのではないか。

→移住に関しては、県で移住の総合相談窓口を作っており、集約している情報で対応するようにしている。その後より詳しい情報が知りたいと言う場合には、担い手確保の各担当部署や各市町村に繋ぐようにしている。今後も、より連携を図り、支援制度の情報発信をしていきたい。

また、幸せ移住パッケージシステムの中でも、各市町村の新規就農の支援制度も紹介しており、今後も情報発信に努めたい。

→農の雇用制度については、雇用、求人という制度の中なのでハローワークを通じて募集し、それから雇用契約を結び、雇用保険や社会保険をかけてもらうという一定の制約がある。パンフレットがあるので、お構いの方は応募して頂きたい。認められれば月額9万7千円が支給されるので、雇う側としては少しでも負担が軽くなる。

→農家の方へというわけではないが、一定障害のある方をパートなどに雇えば助成が受けられるとか、中小企業団体の保険に入ったら退職金制度があるとか、一定雇用型のそぐりさんのような方を雇用して経営されている農家の方は対象になる制度がある。農業振興センターも農協と一緒にあって、部会へも情報提供していきたい。

→水産業にも農業と同じような制度があり、就労者支援、雇用型とほぼ同じ形である。ご相談頂ければサポートしていく。

→林業も雇用の支援制度があるので、ご相談頂ければと思う。

→どこが窓口が分からない時は、地域本部に聞いてもらえれば、必ず担当の窓口へ繋ぐようにする。

- ・食を通じての産業振興計画について。香南市では「ニラプロジェクト」に取り組んでいる。今後も「ニラ塩焼きそば」をエースとして売り出していくが、他にも大阪で開催された食博で、「あんかけニラ豚丼ぶり」を販売したら非常に評判が良かった。蕪生米を使用した「あんかけニラ豚丼ぶり」「あんかけニラシャモ丼」「ニラ塩チャーハン」など、売れそうな物がいろいろと出てくると思う。

→先ほど「ニラ塩焼きそば」を始め、シャモとかいろいろなものを組み合わせてやっていきたいということで、そういったものをどんどん地域の方から発信していただければと思う。そして、それをいろいろとPRしていく中で、「高知に行ったらあれを食べないかん。」「これを食べたら元気が出る。」と言ってもらえるような取り組みになるよう、力を入れてやっていきたいと思う。

- ・県外の大学へ行き戻らないということが、高知県の一番の損失ではないかと思う。

そうした中で、現在農業で定住してくれた県外の人達がいる。そのグループについて、実情をお聞きしたい。

→17年前ぐらいに新規就農者として入ってきた。現在、指導農業士ということで、UIターンの若者達を受け入れ指導しているが、そういう人達を家族の一員として、地域の担い手として育てて行きたいという意気込みがあり、農協も遊休ハウスや住居等をあっせんし、定住に向けての方策をとっている。

UIターン者には就農するまでの間、農協の生産部会や青壮年部活動、地域の行事や消防団に積極的に参加してもらい、地域に親しみ、地域に認めていただけるような人材になるよう、農協も協力させてもらっている。今のところ毎年1、2名の就農者がある。

- ・食1グランプリについて。南国市で始めて3回となるが大変好評であり、毎年出店者も増えそれぞれの地域も新しいメニューを作って出店してくれている。成功している一つの事例ではないかと思うが、それをもっとバージョンアップさせ、四国レベルのイベントをこの地域でやったらという声も上がっている。今、いろいろと調査をしているが、そのバックアップができないか考えをお聞きしたい。

→四国レベルのイベントを高知でやったらどうかということだが、今の段階では何に結びつくのか分からないので、実行委員会に参加するなどして、詳しく話を聞いていきたい。その上で、地域を売り出していくためにどういう形で参加できるか、支援できるかを前向きに考えていきたい。

- ・移住の問題について。前回の会で福島県浪江町の話をご提案させてもらった。条件が揃わないと駄目だが、条件さえ良ければ、前向きな姿勢での受入れができないか。前の回答と同じか、もっと進んでいるかお聞きしたい。

→農業の形が合わないこと、集落単位での移転を希望しているという話を先に聞いていたので、農地確保などの面を考えると、後ろ向きの回答と捉えられたかもしれない。高知を気に入って、ここでならやっという方がいれば、こちらの状況も見てもらって、可能な方は入ってきて頂きたい。前回と姿勢は変わっていない。

<産業振興センターの取組について>

- ・特になし

■お問い合わせ先

高知県産業振興推進部計画推進課（地域担当）

電 話 088-823-9334

FAX 088-823-9255

メール [120801@ken.pref.kochi.lg.jp](mailto:120801@ken.pref.kochi.lg.jp)